

報 告 書

令和6年7月18日

座間市議会議長

萩原 健 司 殿

基地政策特別委員会

委員長 熊 切 和 人

基地政策特別委員会で委員を派遣しました基地政策に関する事務調査（行政視察）について、別紙のとおり復命がありましたので報告します。

復 命 書

令和6年7月18日

座間市議会議長

荻原健司 殿

基地政策特別委員会委員長 熊切和人
副委員長 星野久美子
委員長 瀨未紗
委員 加藤学
委員 清水剛
委員 沖本浩二
議長 荻原健司

次のとおり報告します。

- 1 視察日時 令和6年5月7日（火）～令和6年5月8日（水）
- 2 視察先 海上自衛隊呉地方総監部、陸上自衛隊海田市駐屯地
- 3 視察項目 基地政策に関する事務調査
- 4 概 要 別紙のとおり

令和6年5月15日

座間市議会議長

萩原健司 殿

基地政策特別委員会

委員長 熊切和人

視察所感

(1) 海上自衛隊呉地方総監部について

和歌山県から宮崎県に至る1都1府12県の広大な陸・海域の防衛警備をはじめ、爆発性危険物の除去、災害派遣、救難活動、艦艇・航空機等の部隊に対するロジスティック支援などに従事しています。

地域との連携協力事業としては、呉海自カレー事業や地元経済界との連携事業やプロスポーツ団体とのコラボ、そして庁舎と艦艇が創設70周年を記念して毎週土曜日・日曜日に一般公開され、地域との交流活動も盛んに行われています。

敷地内には平成28年に日本遺産に認定された、海上自衛隊呉地方総監部第一庁舎、地区内のレンガ建物群、呉鎮守府地下施設群があり歴史を感じさせる基地内となっています。

本市もキャンプ座間を抱える自治体として、自衛隊や米軍と更なる連携ができるよう努めて参ります。

(2) 陸上自衛隊海田市駐屯地について

海田市駐屯地は、広島県安芸郡海田町と広島市安芸区矢野に所在し、第13旅団司令部等が駐屯する陸上自衛隊の駐屯地であり、司令部が海田町にあることなどから、海田市駐屯地と命名されている。

主な活動としては、災害派遣活動や国際平和協力活動等を行っている。

防衛力抜本的強化に伴う駐屯地の整備(防衛費の増額により)として、トイレの洋式化や隊員食堂のLED化や女性隊員宿舎の浴場改修が行われた。

地域との絆の強化として、駐屯地各種行事に各自治体の長、駐屯地周辺の自治会長、町内会長を招待、駐屯地のグラウンド・体育館・テニスコートを地域の方々に土日祝日開放、演習場にある東広島市及び駐屯地周辺区域の各種イベントにおける装備品展示等を行っている。

駐屯地行事としては、桜並木一般公開、観桜会、旅団・駐屯地記念行事等を行い、多くの一般人が来場して、交流を図っている。

部外広報活動として、隊内生活体験、職場体験学習、管理栄養士実習、部隊見学、装備品

展示、スポーツ団体音楽演奏支援等を行い、数多くの企業や学校、市民と交流を図っている。

本市もキャンプ座間を抱える自治体として、自衛隊や米軍と更なる連携ができるよう努めて参ります。

令和6年5月27日

座間市議会議長

荻原健司 殿

基地政策特別委員会

副委員長 星野久美子

視察所感

(1) 海上自衛隊呉地方総監部について

1日目の視察は海上自衛隊呉地方総監部でした。呉地方隊は、昭和29年の創設以来、和歌山から宮崎県に至る1都1府12県(東京都沖ノ鳥島を含む)の広大な陸・海域の防護警備に任ずると同時に、護衛艦隊をはじめとする機動部隊に対する後方支援、さらに災害派遣や救難活動のほか、様々な民生協力などにも従事しているそうです。今回の視察では、まず呉地方総監部幕僚長から様々な話を伺いましたが、本年元日に発災した能登半島地震でも災害救援に活躍されたとのことでした。災害時の自衛隊員の働きには本当に感謝と敬意を表すものです。

また、幕僚長の話では現在自衛隊員のなり手が少なくなっているとのこと、今年は募集の四分の一程度だったとのこと。特に海上自衛隊は洋上での勤務が多いことから、現在の若者が広く利用しているインターネットが使用できないことも一因であると言われていました。

1907(明治40)年に建てられたレンガ造りの第一庁舎でレクチャーを受けたのち、総監部内にある地下施設を見学。岩を削って作られた施設は頑丈そうでしたが、その工事にどれだけの人工が費やされたのだろうかと考えさせられました。その後見学した海上自衛隊呉史料館「てつにくじら館」では、海上自衛隊の歴史や戦中に撒かれた機雷除去に関する資料が展示されていました。戦争中に撒かれた機雷。これを除去するための多額の費用と犠牲。戦争は起こしてはいけない。戦争は絶対にダメだ、と改めて思われました。また、潜水艦内部に入ることができましたが、居住エリアはとても狭く、苦しい任務であろうことが想像できました。

(2) 陸上自衛隊海田市駐屯地について

2日目の視察の海田市駐屯地は、広島市中心部から南東約10キロメートルの海田町に所在しています。中国地方の防衛・警備等を担任する第13旅団の司令部所在地として活動しているとのこと。到着後記念撮影を行い、司令部応接室にて一等陸佐からお話をいただいたのち、「みつや館」という別棟で駐屯地の概要説明を受けました。そこでも自衛隊員のなり手

が少ないという話がでました。しかしその一方で女性隊員の比率が増えているとのことでした。そこで、質疑応答では「男女隊員の賃金格差」について訊ねたところ、「格差は一切無い」とのこと。また、近年大きな問題となっている自衛隊員間による【セクシャルハラスメント】【パワーハラスメント】の問題をどうとらえているのか、どのように対策をとっているのか聞きました。「ハラスメントはあってはならないことである。機会を捉えて上層部に対し研修などを行っている」との答えでしたが、「すべてのハラスメントをなくすために、まずこの駐屯地から行動してください」と求めました。レクチャー後に敷地内を車で案内してもらいましたが、途中で女性を含む隊員が訓練をしているところを見かけました。この隊員たちがやりたい仕事が自衛隊員であるならば、その仕事を全うできるように自衛隊の中のハラスメントの問題が解消されるよう願ってやみません。

駐屯地はとても広く、駐屯地内は海田町と広島市安芸区にまたがっています。座間市にあるキャンプ座間も相模原市南区にまたがっていますが、広大な土地について考えさせられるものがありました。

この駐屯地も、前日の呉地方総監部も、市民の見学等を多く受け入れている施設でした。そこで働く自衛隊員が、戦争などに行かないでよい社会を私たち政治に携わる者は作っていかねばいけないのだ、と思わされる視察となりました。

令和6年5月20日

座間市議会議長

荻原健司 殿

基地政策特別委員会委員

長 瀬 未 紗

視察所感

(1) 海上自衛隊呉地方総監部について

災害派遣について、呉は海上自衛隊が有する3隻輸送艦の母港となっており、今年1月に発災した能登半島地震の際には呉から輸送艦が支援に向かった。舞鶴にも海上自衛隊はあるが、重機を積むことができる輸送艦があるのは呉だけだそうだ。能登半島地震では道路が寸断され陸路での支援が難しい中、海からのアクセスの重要性に改めて注目が集まったと考える。南海トラフ地震も予想される中、また異常気象で毎年のように大規模災害が起こる中では、海上自衛隊の災害派遣任務について改めて考えるきっかけとなった。

地域交流について、呉地方隊では、土日の一般開放を行っている。明治40年に建てられたレンガ造りの庁舎やレッドカーペットの内装、太平洋戦争時代の地下通路、電話交換所、歴史のある大階段など見応えのある施設であり、戦争の歴史を学ぶ上でもいい取組ではないかと感じた。事前の申込が必要なく、地元の人も観光客も気軽に参加できる場所も人気の理由ではないかと思う。

また、休館日であるのにも関わらず「てつのくじら館」を案内していただいた。戦中に米軍が投下した機雷数は約1万個に上り、戦後も機雷除去などの危険な任務が続き、掃海作業で79名、一般船舶で1,294名もの犠牲者を出していたことを知り、戦争のまた違う側面を学ぶことができた。自身の命をかけて国民の命を守り、その経験を世界に役立てている隊員みなさんに敬意を表したい。

(2) 陸上自衛隊海田市駐屯地

地域との関わりについては、隊内生活体験など特徴的な取組を行っていることを知った。また、敷地内の体育館・グラウンド・テニスコートの一般開放を可能な限り行っているということ、また小学生の登下校の際の見守りも行っているということで、地域住民とも積極的に関わっていることを感じた。ヘリコプターが飛来する際等大きな音が出る時は、特に隣接するマンションの住民には直接ポスティングするなど地域住民に周知をしているということで、基地の運用に際し理解を得るために地域との関わりを大切にしていることを感じた。

また、国の防衛費増が隊員の皆さんの生活環境の改善につながったことを知った。生活環境は大切なので、そこをまず底上げしていただきたいと感じる。

マイクロバスで巡回していただき、戦闘訓練所や自動車教習所などはキャンプ座間では見たことがなかった施設もあり、自衛隊の任務についてより理解できた。

最後に全体を通じて、「基地を知る」ということが今回の視察の目的であったが、私自身自衛隊基地の視察は初めてなので大変勉強になった。どちらの隊でも人員不足が課題であり、人材獲得のためにさまざまな努力をされていることを感じた。自衛隊の皆さんには日々国民のために働いていただき頭が下がる想いではあるが、今後も隊員の安全を大前提に任務に取り組んでいただきたい。

令和6年5月15日

座間市議会議長

萩原健司 殿

基地政策特別委員会委員

加藤 学

視察所感

(1) 海上自衛隊呉地方総監部について

呉地方総監部では、海上自衛隊と行政の関わりや地域貢献について視察した。特に呉は能登半島が近いので具体的な能登半島大震災時の災害派遣の取組を伺えた。大型の艦船を利用して、道路が寸断されていても大型重機やホバークラフトを被災地に運ぶことができていた。関門海峡や大隅半島を迂回して行くために機動性は劣るが、大量の機械や支援物資を運べること、被災地に留まり支援できることは大きな利点である。呉港祭りへの参加や音楽隊活動も自衛隊への理解を広げる機会となっている。本市や横須賀市とは異なり呉は米軍の基地がないこと、海軍と市が共に歩んで来た歴史的背景も自衛隊への理解が進む要因であるとの所感を持った。

(2) 陸上自衛隊海田市駐屯地について

海田市駐屯地では自衛官有志による小学生の見守り隊、ゴミ拾い、墓地の掃除等の地域貢献活動が行われていた。老朽化した駐屯地施設の改修工事の計画と共に部隊編成も様変わりが進み、戦車はなくなりヘリも基地が移動するなど騒音による環境への影響が少なくなっている。中・高生を中心に体験学習を行っており、参加者は挨拶や規律正しい生活ができるようになった等の喜びの声も聞かれるようだ。自衛隊の職場体験が自衛隊の評価に貢献していることから、地域の資産として活用できる可能性があるとの所感を持った。

令和6年5月27日

座間市議会議長

荻原健司 殿

基地政策特別委員会委員

清水 剛

視察所感

(1) 海上自衛隊呉地方総監部について

海上自衛隊呉基地に到着してまず驚いたのは、歴史的な建物が多かったことです。建物は高台に位置し、その後ろには海が広がっていて景色がとても綺麗でした。呉地方総監部幕僚長から、海上自衛隊の現状や若い海上自衛隊員のお話を聞くことができました。現在苦慮されていることは、海上自衛隊の勤務体系も影響するのであろうか隊員のなり手が少ないとのことでした。さらに陸上ではなく海上での任務となると私たちの生活の一部である携帯電話などの使用制限も厳しいという側面も影響しているようです。敷地内には地下通路もあり、入り口を拝見することができました。また呉鎮守府電話総合交換所の跡地も残っており、この施設の構造はおよそ250キログラム爆弾または中口径砲弾の攻撃に耐えうる機能が想定されており構成文化財として認定もされているそうです。呉地域では市内や周辺地域に数多くの地下施設が建設されているとのことですが、お話を聞きその時代の苦労を知ることができました。帰り際に、改装中ではありましたが、てつのかじら館も拝見することができました。海上自衛隊の歴史、潜水艦や掃海艇の活躍について説明を受け、世界の海を守る重要性を感じることができました。

(2) 陸上自衛隊海田市駐屯地について

JR海田市駅から徒歩で陸上自衛隊海田市駐屯地に向かいました。こちらでは、防衛力抜本的強化に伴う駐屯地の整備についてお話がありました。これは駐屯地における隊員の生活環境の改善が必要であるとのことでした。トイレの洋式化、隊員食堂のLED化、女性隊員宿舎の浴場改修などが進んだようです。昨今話題にのぼることが多いのが、防衛費の増額であります。考え方は様々ですが説明やスライドを見せていただき、駐屯地の生活環境の改善や整備はこれからも必要であると感じました。この様な整備が進むことにより自衛隊員のなり手の確保にも繋がると思います。また、こちらの駐屯地の行事の紹介で、建物の上から若い隊員が元気な姿で行っていた「二十歳の誓い」がありました。継続的に行われているのか不明ですが、一つの節目である二十歳の時に、周りの方に自身の誓いを聞いてもらうことは、本人の心にもしっかり残り貴重な体験だと思えます。さらに隊内生活体験、職場体験実習、

管理栄養士実習など部外広報活動も充実していると感じました。駐屯地内には実寸大の戦車なども展示されており見学できたのは貴重な体験でした。

令和6年5月20日

座間市議会議長

荻原健司 殿

基地政策特別委員会委員

沖本浩二

視察所感

(1) 海上自衛隊呉地方総監部について

海上自衛隊呉地方総監部第一庁舎（旧呉鎮守府庁舎）内にて地方総監部の業務や地域との交流などについて説明を受け、また敷地内のレンガ建物群や呉鎮守府地下施設などの見学をさせていただいた。

旧呉鎮守府庁舎は、明治40（1907）年に竣工され、現在は呉地方総監部第一庁舎として活用されている。また、敷地内には、その他にも明治から大正期にかけて建てられたレンガ建造物や庁舎海側の崖を切り開いて建設された地下施設が残り、呉に鎮守府が置かれていた歴史を学ぶことができた。

呉地方隊は、帝国海軍呉鎮守府の良き伝統を受け継ぎつつ昭和29年の創設以来、東は和歌山から西は宮崎県に至る1都1府12県（東京都沖ノ鳥島を含む）の広大な陸・海域の防護警備に任ずると同時に、護衛艦隊をはじめとする機動部隊に対する後方支援、さらに災害派遣や救難活動のほか、様々な民生協力などにも従事している。

また、地方自治体や団体などが計画する各種行事などに対する協力支援を行っている。例えば、呉海自カレーを主体とした事業、地元経済界や広島カープなどのプロスポーツチームと連携した事業。さらには、創設70周年を記念して、毎週土曜日・日曜日に第1庁舎ならびに艦艇を一般公開するなど、地域交流が盛んに行われている。

座間市に所在し、市域のおよそ3.2パーセント、約57ヘクタールを占めるキャンプ座間には在日米陸軍司令部などが置かれ、陸上自衛隊座間駐屯地も所在します。この敷地には元々旧帝国陸軍の士官学校があり、天皇陛下が訪れるために用意された防空壕が今なお残っているなど、旧帝国陸軍の史跡を知ることができる。座間市においても、こうした歴史資源を活用した観光施策や陸上自衛隊座間駐屯地との地域交流事業の推進を図りたい。

(2) 陸上自衛隊海田市駐屯地について

海田市駐屯地は、第13旅団司令部等が駐屯する陸上自衛隊の駐屯地である。昭和25年に創設され、陸上自衛隊の中でも古い歴史をもつ駐屯地で、およそ2,000人の隊員が所属している。

海田市駐屯地では、駐屯地司令の要望事項「地域と共に」を合言葉に 隊内生活体験、中

学生の職場体験学習、駐屯地見学、駐屯地行事及びグラウンド・体育館などの施設利用を通じて、地域の方々とのふれあいを大切にしており、『心の元気』全町展開プロジェクト」や「あいさつ運動&クリーン作戦」など地域交流を盛んに行われている。

また、部隊に所属する第13音楽隊は、広報の第一線として「青少年コンサート」、「定期演奏会」および各種演奏を通じ市民との懸橋として活躍しており、中・高校学生等への演奏技術の等の指導も行っている。

海上自衛隊呉地方総監部同様、座間市においても陸上自衛隊座間駐屯地との連携を密にした地域交流事業、例えば単位自治会や自主防災組織主催の防災訓練に参加してもらうなど、より地域に密着した関係を築けるような取組を推進したい。

令和6年7月18日

座間市議会議長

荻原 健司 殿

座間市議会議長

荻原 健 司

視察所感

(1) 海上自衛隊呉地方総監部について

今回の視察で衝撃的だったのは、採用計画人員に対し、25パーセント程度しか採用ができなかったという点であります。これは、海上自衛隊あるあるである「洋上における生活環境」が、スマホや情報通信端末があることが当たり前の生活を送ってきた若者に敬遠される所以とのこと。この点は、人口減少社会との関係もあり、非常に憂慮すべきであると思う。

陸・海・空自衛官は、領土・領海・領空を守り、様々な災害の際に最も頼るべき存在であることを国民全員が再認識し、処遇面などの改善を含め環境改善に取り組むべきと感じた。

今年元日に発災した令和6年能登半島地震への対応では、海上を航行する輸送船を唯一保持しているとのことで、即時対応をされたとのことであります。

本市議会では、「自衛隊は災害対応だけしていれば良い」という曲解をする議員が居る点は非常に残念であるが、とは言え、災害時に最も頼りになる組織の一つは自衛隊であることは事実として受け止めなければならない。

呉市は、令和4年に市制120周年を迎えた歴史ある自治体であるが、その背景には今回訪問した海上自衛隊（以前は海軍）基地があることは言うまでもない。

歴史的な建造物や遺構の数々は壮観で、海洋国家の象徴であると感じた。

海自カレーを活用した地元経済界とのコラボによる「呉グルメフェス」への参加に加え、地域に所在するプロスポーツ団体（広島東洋カープ、サンフレッチェ広島）とのコラボイベントも行われるなど、地域貢献活動も精力的に行われており、さらに音楽隊による小・中学校吹奏楽部への指導などについては呉市教育委員会の理解も深いということで、地域との共存・共栄が盛んで羨ましいと感じた。

(2) 陸上自衛隊海田市駐屯地について

広島県の官公庁が近接するなど交通の利便性は高いという地域特性はあるが、空港は遠いとのこと。

過去、所属会派で視察した兵庫県青野原駐屯地同様、二つの行政区（海田町と広島市安芸区）にまたがる位置に所在する。

演習等は周辺の原村演習場にて行われているとのこと。

同駐屯地の視察にて改めて明らかになったのは、昨今話題になる「防衛予算増額」についてである。

ちまたでイメージされる防衛予算の増額は、一部の政党などによるレッテル貼りの影響で「武器などを大量に購入する」というイメージが定着してしまったとも言えるが、今回の視察では「隊員が使用するトイレなどの修繕や被服などに加え、老朽化した建築物などの建て替えについても予算化されたことで目途がついたとのこと。

マスコミなどに求めたいのは、バイアスのかかった報道ではなく、均等に事実を報道してほしいと強く望む。

大雨などによる災害が頻発する広島市は、山を削り宅地造成をしているという町づくりの歴史が、土砂崩れなどを誘発している側面もあると聞き、理解することができた。

これらの点に考慮、対策したうえで工事が進められているそうである。

令和6年の「二十歳の誓い」は、能登半島地震への対応があったことから例年1月に開催していたものを3月に時期をずらして実施されたとのこと。こうした点でも、自己を犠牲にして他に尽くすという自衛隊の精神に感謝の言葉しか思い浮かばない。

今後は、女性自衛官のための環境改善などに積極的に注力したいということであったが、そのために必要な予算は適宜適切に措置してほしいと願うものである。